

◇ 1 事業報告 ◇

(1) 組織作り及び事業計画作成 4月20日(月) 柏崎市立第三中学校にて

(2) 《教育講話研修会 ①》 7月14日(火) 柏崎市立教育センターにて

講師 防災士チーム柏崎 様

《講話の概要》

- 正解のない「クロスロードゲーム」を通して、児童生徒の命をどのように守るか、考える。
- 小グループを編成し、一人一人に「Yes」「No」のカードを配付。防災士が災害に対する対応を出題し、参加者は瞬時に判断してどちらかのカードを出す。出したカードを基に、なぜそのカードを出したのか、自分の想定した状況はどのようなものかについて、グループで話し合う。



※出題例【あなたは小学校教諭。校外学習で近くの公園に児童30人を引率中、大地震発生。倒壊物により足を骨折した子と脊椎を損傷した可能性のある子が2名いる。あなたはそこに残り、ほかの児童だけで学校に帰らせるか? Y:帰らせる N:帰らせない】

- 参加者の感想 「終始、グループの間で活発なコミュニケーションを交わしながら出題される問題について考えた。問題が進むにつれて、条件に多くの要素が含まれ、厳しい状況の中で考えなければならないものが出題された。参加者は、即時に判断を求められるため、真剣に考え、カードを出していった。グループ内の異なる考えを支持する理由に耳を傾けることで、考え方の幅が広がるが多々あり、有意義な研修会であった。

(3) 《教育講話研修会 ②》 11月20日(金) 柏崎市立教育センターにて

演題 「歴史を通して人権問題を考える」

講師 新潟産業大学 特任教授 秋山 正道 様

《講演の概要》

- 歴史を通して同和問題、人権問題を考える大切さ
 - ・差別の歴史や同和問題の歴史を知り、差別の本質を知ること。
 - ・明治以降の同和問題を正しく捉え、現存する差別問題を科学的な認識に立って考えること。
 - ・柏崎地域での差別問題は私たちには見えづらいが、今も残っているという認識をもつこと。
- 差別の現状と解決に向けて
 - ・糸魚川結婚差別事件のことや高等学校で発生した差別事象のことを例に挙げて、正しい認識に立った学校での教育や一回だけでなく学び直しが必要であること。
 - ・同和問題も含め、水俣病患者・拉致被害者等に対する差別、インターネットによる人権侵害等の人権課題があることの認識を深め、人権意識を高めることが大切であること。
 - ・「何も知らないことから差別が生まれてくる。だから、正しく知ることが大切である。」教育の力を生かし、差別のない社会を作り出す人の育成が大切であること。



◇ 2 成果と課題 ◇

今年度も今日的課題である「防災教育」「人権教育、同和教育」の研修を行った。教育に携わる者としてこの課題をどう受け止めるか、改めて考えさせられた。児童生徒と向き合うとき、教師の人間性が問われる。命や人権を最優先し大切にすることを念頭に置いた学校教育を展開する必要がある。

今後も、様々な分野で活躍される方からお話をいただき、学校経営を考える場としていきたい。